

事業所名

那覇市こども発達支援センター

支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

31 日

法人(事業所)理念	・支援が必要な子どもや保護者に必要な支援を届けることを理念に、一人ひとりの特性や発達段階に応じた発達支援を早期療育として行う。				
支援方針	<p>◎親子通園を通して、親子の愛着形成、子どもの発達支援及び保護者支援の3本柱を大切に療育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの特性や発達段階に応じた療育を行うとともに、親子の愛着形成を育む。 少人数クラスで丁寧に関わりながら、保育士と活動を楽しむ中で、信頼関係を構築し、保護者以外の大人との関わりを広げていく。 他児を意識し、一緒に活動を楽しむ経験を積み重ねる。また、基本的な生活習慣の自立を図る。 遊びを通して五感を刺激しながら発達を促していく。(感触遊び、運動遊び、その他発達に合わせた遊び) 各専門職と定期的に発達を確認し、アセスメントに基づいて療育を行う。(臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士) 保護者支援として、自分の思いを話せる関係づくりや子どもの発達を受け止め、親自身が子育てに自信が持てるようになり、また、同じ悩みを持つ保護者同士のつながりを支える。 				
営業時間	8 時	30 分から	17 時	15 分まで	送迎実施の有無 あり (なし)
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの発達の状況に合わせて生活のリズムや生活習慣の形成、基本的な生活スキルの獲得をスモールステップで支援する。(排泄(一人ひとりの排尿間隔を踏まえる)、着脱、手洗い、うがい、食事、身の回りの始末、靴下や靴を履く等) 家庭での過ごし方を保護者と確認し、それぞれの家庭に合った支援を一緒に考えていく。 活動の流れが把握できるよう視覚的に示し、見通しが持てるようにする。 様々な行事に参加し、経験を積み重ねられるよう支援する。 給食を経験することで、友だちと一緒に食べる楽しさや食への興味を育む。 			
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 首が座る、腹這い、寝返りをうつ、這う、四つ這い、つかまり立ち、歩行が安定するといった様々な運動機能が身につくよう、遊びを通して発達を促す。 身体に刺激がしっかり入る遊び(ふれあい、感覚、風などを感じる遊び)や自分の体や外界(遊んでいる相手)を感じるあそびを引き出す。 遊びを通して自ら身体を動かそうとする意欲を育てる。 バランスを保ち段差・階段を登る、よじ登り(マット、梯子等)やバランス遊び(平均台、ブランコ等)を通して、姿勢を保つ力やボディイメージを育てる。 力いっぱい取り組む遊びや力加減の調整が必要な遊びを通して、力や動きのコントロールを育てる。 好きなふれあい遊びや感覚遊び、リトミックなどを通して、身体を動かすことを楽しむ。 ボールや風船などを転がす、投げる、キャッチする、蹴るなどの遊びを大人と楽しむなど、遊びの中で道具を使う経験を重ねていく。 ままごとや砂遊び、変化する素材に道具を交えて遊ぶなど、手先を使った遊びを楽しむ。 一人ひとりの好きな感覚や苦手な感覚に配慮する。 			
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びや興味を示したものを母親や保育士と共有する。また、繰り返し遊ぶ中で手応えや達成感を得る。 遊びの中で、見る、聞く、触るなどの経験をを通して五感、感性などの感覚を豊かにする。 大人を支えに自分の思いと他者の思いの間で折り合いをつけられるように支援する。 大きくなることへの喜びを感じ、自分のことを自分でやろうとする経験を積み重ねていく。 安心できる環境の中で、保護者と離れて保育士や他児と楽しく遊ぶ時間が増えるようスモールステップで支援する。 			
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> オノマトペや幼児語などを使うことで発音につながりやすくなるよう支援する。 コミュニケーションのツールとして写真や絵カード、指差しや身振りなどを使用することによって、大人は子どもの思いを受け止め代弁したり、子どもは自分の思いを伝え、伝わる喜びを感じられるよう支援する。 物を介して大人と繰り返しのある遊びを楽しむ。大人の言葉や行動、身振りなど見本を示すことで模倣を引き出す。 			
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 感触遊びや運動遊び等好きな遊びを通して、クラスの保育士等身近な大人との関わりに心地よさを感じながら、「人と一緒に楽しい!」と人に気持ちを向けていく。 保護者を安全基地として参加できる活動の幅を広げていく。 大人との信頼関係を土台に、同年代への興味関心を広げていく。他児の活動に関心を示し、視線を向けたり、物を介したやり取りができるなど社会性を育む。 小集団の活動から集団への活動へと人との関わりを幅を広げていけるよう支援する。 			
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 日々保護者と児の姿を共有し、保護者が必要とする情報提供や支援を行う。 親教室(月1~2回)(親子分離) : 各専門職による講座/体験型リフレッシュ講座(年1回)/卒園した保護者によるお話など OB保護者ゆんたく会(年5回)親子同伴有 ペアレントプログラム講座(年1クール開催) 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 親子通園から児童デイ(単独通園)の活用など就園に向けてスモールステップで支援を行う。 園の見学や情報提供を行い、児や保護者が安心して就園できるよう支援する。また、情報提供書の作成する。 「サポートノートえいごる」の作成支援を行う。 		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 近隣園での園庭利用、保育交流。校区園への見学や保育体験の案内。 相談支援事業所や他の児童発達支援事業所(分離型)との連携を随時行う。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに各専門職員からの発達研修・保育士に向けての研修会の参加ファシリテータ実施・園内研修(月1回)・沖縄県発達支援通園事業連絡協議会の研修(年5回)・乳幼児救急救命講習会・虐待防止研修・感染症まん延予防研修・ペアレントプログラム講座職員研修 		
主な行事等	誕生会(毎月)・春の遠足(5月)・特別支援学校見学・保育園こども園見学(10月)・きょうだい保育参加(夏休み期間)・家族保育参加(9月)・親子運動会(11月)・お楽しみ会(12月)・お別れ遠足(2月)・卒園式(3月)/内科健診(年2回)・歯科検診(年2回)/避難訓練(毎月)				